

## 沖縄産施釉陶器

# 香 炉

■ 出土地：円覚寺跡

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押し  
の出土品を、月替わりでご紹介します。

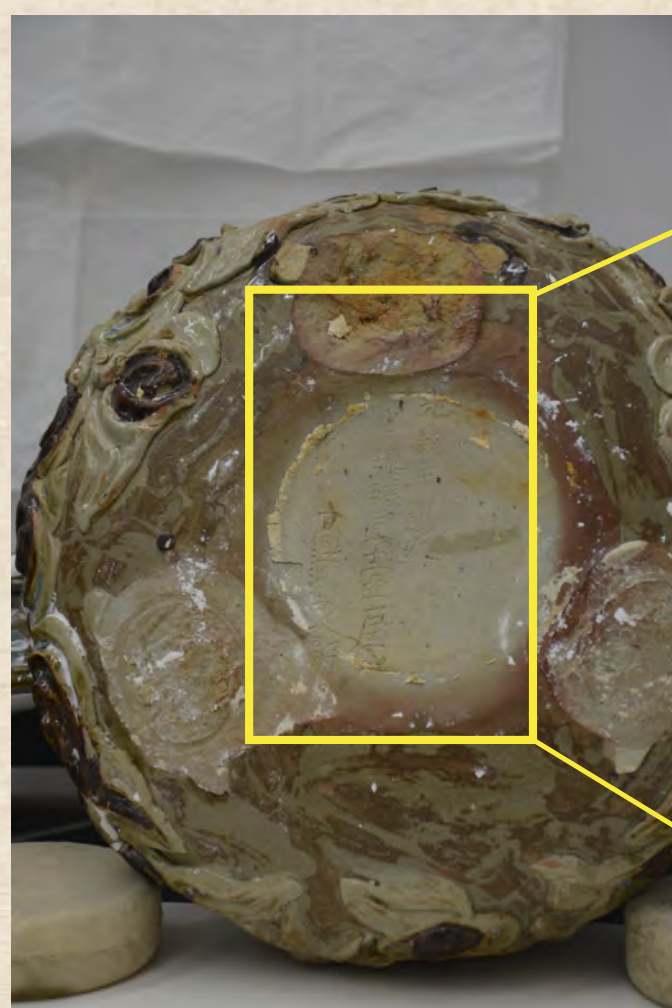
今月は、円覚寺跡シリーズ第3弾！

2匹の龍が施された香炉を紹介します。

円覚寺跡から出土している沖縄産の施釉陶器（上焼）は、  
碗が最も多く、鉢、皿、鍋、急須、瓶、火取、香炉、壺など、  
様々な種類があります。

今回紹介するこの香炉の外表面には、阿吽の形相をした四爪  
の龍が火炎宝珠文を挟んで向かいあう様子が表されています。  
四爪の龍は、中国皇帝の象徴である五爪の龍に次ぐもので、  
琉球国王と朝鮮国王に使用が許されたとされています。

底部には3本の脚が取り付けられていた跡と、「光緒年製琉  
球國壺屋高江洲良弼」の銘と押印が見られます。このことか  
ら、香炉は中国清朝の11代皇帝（光緒帝）の在位期間（1875－  
1908）に製作されたものと考えられます。



香炉の底部



銘と押印

